

「ガッティークリーナーA」のよくあるご質問

□質問1

現状、現場では測定機器のメンテナンスをどう行っているのでしょうか。

☑回答1

加工者の皆さんも方法がわからずメンテナンスに困っているようです。

一例を紹介します。(web サイト[技術の森]より一部抜粋)

先般、現場の人間から石定盤のメンテナンス方法を聞かれたのですが、
答えられずに困りました。

検査室の石定盤は週1回程度の間隔で、アルカリ洗剤でゴシゴシ拭き上げた後、
水拭きして自然乾燥をしています。

しかし現場は油脂・切削油などが舞っており、ホコリも相当なものです。

滑りを良くするために、防錆油を頻繁にスプレーで吹きかけているくらいです。

皆様の職場では、現場の石定盤についてどのような管理・メンテナンスをしていますか？

回答1

うちでは水溶性切削液が降り積もってネトネトになりワーク、ハイトゲージの滑りが悪くなります。

滑りが悪くなり作業に支障が出たら、洗剤をスプレーしてウエスで拭いています。

ハイトゲージの裏が錆びるといやなのでノーコンパウンドのカーワックス

(滑りのよいもの)を塗っています

回答2

使用する人がウエス等で使用箇所を拭いて使用する位です。(ホコリ等の除去目的で)

回答3

定盤の表面に油分があると逆にすべりが悪くなる事もある。

特に目の細かい物だとその傾向は強い。

アルカリ洗剤より中性洗剤の方が望ましいと聞いた覚えはあるが

私は家庭用の洗剤(弱アルカリ)で拭き取ってそのまま使うか

測定器の錆が心配な時は離型用のシリコンスプレーを吹きつけて拭き取っている。

みなさん、石定盤の劣化を気にされながらも洗剤で拭いた後、

潤滑スプレーを撒いたり工夫を凝らしてメンテナンスを行っているそうです。

ただし、この方法では洗剤や水分が石定盤に染みこみ測定機器の精度を落とす恐れがあるほか
スプレー後の油膜が均一にならず、ホコリの吸着の原因にもなりかねません。

クリーナーAは誰でも手軽にできる「正しいメンテナンス」を提案しております。

□質問2

クリーナーAを使用することで測定機器のメンテナンスがどう変わるのでしょうか。

☑回答2

ウェットタオルタイプですので、加工者の技量に関わらず

誰もが同じように適切な拭き掃除を行うことができます。

また、拭きながら適度かつ均一に1ミクロン以下(※)の潤滑油膜を形成します。

古くなった油膜を拭きとりつつ、新しい油膜を形成していくので

一般的な潤滑スプレーやコーティング剤と違い、油膜の蓄積を防ぎます。

さらに帯電防止効果も付加され、ホコリの吸着などを気にすることなく

石定盤、ノギス、マイクロゲージなどで滑らかな動きを実感頂けるようになります。

※重両測定法：

クリーナーAを塗布した60×80mmのクロムメッキ鋼板を10分室内放置後に被膜の厚みを計算。

結果、クリーナーAの被膜厚みは0.1μmでした。

□質問3

クリーナーAの洗浄液の特徴について教えてください。

☑回答3

洗浄成分、指紋除去成分を配合。さらに防錆潤滑成分を配合しています。

潤滑成分で滑りを良くすることで作業性の向上が図れるほか

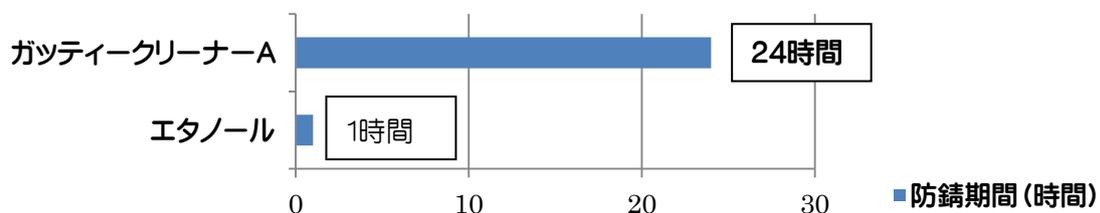
一般的な測定機器洗浄に用いられる無水アルコール(エタノール)と違い、

防錆成分を配合することで拭いた直後の錆の発生を防止します。

□湿潤試験 (JIS K 2246)：

ガッティークリーナーA・エタノールをそれぞれ被覆したSPCC-SB鋼板を49℃、

相対湿度95%上の湿潤状態の装置内に保持し、発生するまでの時間を調べる。



<結論>

試験の結果、ガッティークリーナーAは一般的なエタノールと比較し

拭いた直後から発生する錆の発生を抑制する効果が実証されています。

□質問 4

クリーナーAに使われている特殊不織布の特徴について教えてください。

☑回答 4

濡れても毛羽立ちにくい特殊な不織布を使用しており

測定機器に繊維が絡むことなく、安心してお使いいただけます。

(ティッシュや紙ワイパーに多く見られるパルプくずや毛羽立ちが発生しません)

肌理の細かい特殊不織布はホコリや汚れの吸着性も高く

力を入れずに拭くだけで測定機器の汚れや、軽い錆なども絡め取ります。

□質問5

ガッティークリーナーA 専用補充液の使用方法について教えてください。

☑回答5

例えば、容器のふたを開けたままにしまい

乾いてしまった製品に補充することで再びご使用頂けるようになるほか、

小部品やノギスなどのちょっとした使用后、不織布があまり汚れずに乾いてしまった場合などに補充液を”乾燥した不織布”に数滴浸していただくことで引き続きご利用いただけます。

